

「自分を大切に・人を大切に・ものを大切に・自然を大切に」を 合言葉に、みんなで取り組むエコ・スクール活動

実践事例について

エコ・スクール活動に取り組んで21年目。コロナ禍の今年度は、多くの行事が中止されたり縮小されたりしたが、環境学習はビオトープを核として家庭・地域・地元企業と連携し、感染対策を考えながら行うことができた。

学級エコ宣言を核にしたエコ活動、総合的な学習の時間を中心にした自然体験活動、児童会エコ委員が中心になってのイベントができた。

1 学校の概要

油日小学校は、滋賀県南東部の鈴鹿山脈の麓にあり、油日岳を源流とする杣川が学校近くを流れている。2000年の3月に完成した学校ビオトープも、今では木々が大きく育ち、カエル、メダカ、ヤゴ、ドンコ、タニシ、カワナなど多くの生物が観察できる場になった。また、校庭にも数十種の木々が育ち、よい活動場所となっている。

2 活動の実際

(1) 各学級の取り組み

ア. エコ宣言

6月29日のエコ宣言集会は、新型コロナウイルス感染予防のため放送で校長のキックオフ宣言と各学級が考えたエコ宣言を昇降口の掲示板に掲示して見てもらうという形で行った。各学級からは、ビオトープなど自然に関する宣言、ものの使い方や整理整頓に関する宣言が出された。12月の終業式で中間発表としてできたことを発表した。

イ. 児童総会

今年度の児童総会は、7月に放送によって開かれた。各学年では、油日小児童会の3つのスローガン「エコスクール・ゆめスクール・元気スクール」の実現のためにしたいこと、するといいことなどを話し合って発表する。発表された質問や意見には、各委員会や先生方から回答をもらった。昨年度、ウサギがなくなって一羽になってしまったので増やしてほしいという意見が出され、協議の結果、一羽増やすことになった。なかなかいただけるところが見つからなかったが、休校中の3月に一羽増え、飼育を担当する4年生が全校から応募し「キャラメル」という名前を付けた。登校班で受け持って毎日のえさやりをしている。



(2) エコ委員会の取り組み

エコ委員会は、もっとビオトープの自然に気軽に触れてもらえるようにしたいという思いから、昼休み全部を使わなくていいイベントを何回もしようということになった。週1回をめあてに夏から秋のビオトープの自然を全校に知らせる活動に取り組んだ。

クリの赤ちゃんを見つけよう

クリの木に花が咲いた。たくさんの花だが、目立つのは雄花で雌花は目立たない。委員会で雌花を紹介し、秋にこの雌花のところにクリがなることを伝えた。



トンボを見つけよう



6月、ビオトープの池にトンボがとぶようになった。よく見ると4種類のトンボがいるようだ。全校に呼びかけ、何種類のトンボが見つかるか観察してもらった。また、ヤゴもトンボの種類で違うので紹介した。

葉っぱクイズ・花の名前クイズ

葉っぱクイズでは、よく知っている木を葉っぱで当てるクイズ、花の名前クイズでは、ビオトープを飾るアカツメグサ、くちなしの花、池の中のアサザのクイズをして紹介した。葉っぱクイズは雨の続いた日に渡り廊下で行った。

秋の虫をみつけよう

コオロギやイナゴを紹介し、コオロギの雌雄の見分け方を教えた。

クリの大抽選会をしよう

クリがたくさんとれたので、全校が3つずつもらって帰った。残った分を20個ずつ抽選で子どもに持って帰ってもらった。もらった人は、どのように食べたかを絵日記で知らせるようにした。

ネイチャーゲーム「カモフラージュ」

周りの環境に似せて身を守る生き物、カラフルな色で目立って威嚇する生き物など様々な方法で自然を生き抜く小さな生き物に気づく活動になった。

自然観察会以外にもザリガニの住み分け活動を取り入れ、その意義について知ってもらい、協力してもらえるようにした。

これらの活動についてエコクラブ活動交流会で壁新聞発表を行い、奨励賞をいただいた。

(3) 各学年での取り組み

生活科や総合的な学習の時間「ハナノキタイム」では、各学年がビオトープを中心として環境学習を行っている。低学年は、植物や生き物の変化を観察し、四季を感じることができた。

3年生は「くすりのまち甲賀町」のビオトープとして、地元企業シオノギ製薬(株)油日植物園の指導と協力を得ながら、地域種の薬草である「アイ」を栽培した。9月に朝摘みした生葉を使い、薬科大学の先生の指導のもと、色の変化に感動しながらたたき染めと絞りを加えた青汁染めに取り組んだ。



また6年生は、6月にムラサキを植え、12月に掘り起こし、紫根染めの体験をした。家庭科の「お世話になった人へのプレゼント」の布材料とし、自分で染めた布を使って卒業制作としてプレゼントづくりをしている。

4年生は、身近な樹木からお気に入りを見つけて詳しく観察したり調べたりした。また、やまの

こ学習では、生産森林組合の方の協力を得て、学有林の見学、地域の山での間伐体験をした。

5年生は、ビオトープの池にもっとたくさんの種類の生き物を呼ぶにはどうすればよいか考えるため生き物調査をしたり地域の池の水やびわ湖の水と比べる学習をした。

(4) 環境フェスティバル 11月1日(日)

この行事は、学校で取り組んでいる環境教育を、家庭や地域に広く紹介するために、親子で学ぶ場として全校をあげて行っている活動である。今年度は6年生以外は子どもだけで次の活動を行った。

- ・1年 アサガオのつるのリースづくり
- ・2年 ひつつきむしの絵、虫クイズ
- ・3年 ビオトープの生き物観察
- ・4年 丸太切り体験 木切れでクラフト
- ・5年 水中の微生物観察、ソーラーボート
- ・6年 油日岳登山

今年度も、6年生油日岳登山で甲賀山岳会の方に下見、先導、引率など協力していただいた。その他地元森林組合、オーパル等に協力いただき、自然とふれあい、環境保全について考えることができた。

(5) エコ・スクール支援委員会の取り組み

環境フェスティバルを支えるPTAエコスクール支援委員会は、コロナ禍の今年度は、保護者の参加がないことを受け、各学年の活動支援をしてくださった。実施後の総括会議では、保護者からの聞き取りや支援委員の反省をもとに、学習活動の見直しや当日の動きなどについて具体的に意見が出され、次年度の活動につながる話し合いの場となった。

(6) 地域や地元企業との連携「油日小学校薬草園」

コロナ禍ではあったが、毎年と同じようにシオノギ製薬(株)油日植物園の皆さんの協力を得ることができた。また、毎年、地元滝地区の「ササユリの会」より、バイオで育てた球根を分けてもらいビオトープに植えた。滝地区の子どもたちの継続が実を結んでいる。昨年度シオノギさんの協力を得て完成した「在来種園」は、オミナエシ、フジバカマ、キキョウなど名前は知っているけれど本物を知らない子が多い在来種の花が咲いた。また、今年度は、ビオトープを核にした活動が評価され、トム・ソーヤースクール企画コンテストで「文部科学大臣賞」を受けることができた。

学校名	甲賀市立油日小学校
住所	甲賀市甲賀町上野1322
電話番号	0748-88-2079
E-mail	koka30102032@city.koka.lg.jp